

Ⅱ 国 語

正答表並びに採点上の注意（令和八年度）

問一								
(ウ)	(イ)				(ア)			
	d	c	b	a	d	c	b	a
3	4	1	2	2	3	1	2	4
4点	2点	2点	2点	2点	2点	2点	2点	2点

問二					
(カ)	(オ)	(エ)	(ウ)	(イ)	(ア)
4	1	3	4	2	1
4点	4点	4点	4点	4点	4点

問三								
(ケ)	(ク)	(キ)	(カ)	(オ)	(エ)	(ウ)	(イ)	(ア)
3	3	2	1	2	4	2	1	3
4点	4点	4点	4点	4点	4点	2点	2点	2点

問四			
(エ)	(ウ)	(イ)	(ア)
4	1	3	2
4点	4点	4点	4点

問五																																																	
(イ)									(ア)																																								
<div>作品制作において自身の表現の幅を広げるには、</div> <table><tr><td>狭</td><td>い</td><td>枠</td><td>に</td><td>収</td></tr><tr><td>ま</td><td>ら</td><td>な</td><td>い</td><td>表</td></tr><tr><td>現</td><td>を</td><td>求</td><td>め</td><td>、</td></tr><tr><td>一</td><td>流</td><td>の</td><td>作</td><td>品</td></tr><tr><td>を</td><td>表</td><td>面</td><td>的</td><td>な</td></tr><tr><td>具</td><td>体</td><td>の</td><td>裏</td><td>に</td></tr><tr><td>あ</td><td>る</td><td>も</td><td>の</td><td>ま</td></tr><tr><td>で</td><td>真</td><td>似</td><td>る</td><td></td></tr></table> <div>ことが大切だといえる。</div>									狭	い	枠	に	収	ま	ら	な	い	表	現	を	求	め	、	一	流	の	作	品	を	表	面	的	な	具	体	の	裏	に	あ	る	も	の	ま	で	真	似	る		4
狭	い	枠	に	収																																													
ま	ら	な	い	表																																													
現	を	求	め	、																																													
一	流	の	作	品																																													
を	表	面	的	な																																													
具	体	の	裏	に																																													
あ	る	も	の	ま																																													
で	真	似	る																																														
6 点									4 点																																								

(イ)は正答例。

採点上の注意

【問題全般について】

- 中間点は、問五(イ)以外には設けないこと。
- 疑問点は複数の採点者及び点検者によって判断し、校内で統一すること。
- 誤字・脱字（指定語句及び句読点に係る誤りを含む）の判断については、校内で統一すること。

【中間点のある記述問題について】

- 正答例以外であっても、与えられた条件をすべて満たし、問題の趣旨に即した文ならば、正答として六点を与える。
- 内容については、中間点を設けないこと。
- 誤字・脱字（指定語句及び句読点に係る誤りを含む）については、その数にかかわらず二点減点とする。
- 表現に問題があり、それによって明らかに問題の趣旨から外れている、内容を読みとることができない等の場合は、誤答とする。ただし、許容できると判断した場合は、その数にかかわらず二点減点とする。表現の問題については、複数の採点者及び点検者によって判断し、校内で統一すること。
- 中間点は、誤字・脱字（指定語句及び句読点に係る誤りを含む）がある場合と、表現に問題がある場合の減点以外は設けないこと。したがって、中間点は四点または二点となる。
- 指定語句がある場合、その語句が含まれていない解答は誤答とする。

○ 問五(イ)について

- ・ 指定語句は「**枠**」と「**表面的**」である。

得点項目A

内容については、次の二点に触れていること。

- (あ) 「(狭い) 枠に収まらない表現を求める」こと。
- (い) 「(一流の作品を) 表面的な具体の裏にあるものまで真似る」こと。

〈正答例〉

作品制作において自身の表現の幅を広げるには、
自分の関心の**枠**を広げつつ、尊敬する人の作品を**表面的**な具体の
ことが大切だといえる。

30 裏にある思想まで真似る
40

作品制作において自身の表現の幅を広げるには、
一流の人を**表面的**な部分にとどまらないところも真似ることと、
ことが大切だといえる。

30 **枠**を越えた表現を求める
40